

**近鉄グループ長期ビジョン 2035・中期経営計画 2028 説明会における主な質疑応答**

※本資料は、説明会（3月27日開催）での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、ご理解いただきやすいように一部加筆・修正等を加え、当社がまとめたものであることをご了承ください

**Q 2028年度の国際物流事業の営業利益(計画)240億円について、今般の米国における関税施策の影響は織り込んでいるのか、計画値の策定における考え方を教えてほしい。**

A 今般の米国における関税施策の影響については不透明感もあるため、影響算定は難しく、具体的な織り込みは行っていない。当該施策等により、サプライチェーンの変化が段階的に発生することは避けられないが、必ずしもそれがマイナスに働く訳ではない。事業環境の変化に機敏に対応できるのが近鉄エクスプレスの強みである。これまで培ってきたノウハウ・知見等を生かし事業機会につなげることで、中期経営計画の計画値は達成できると考えている。

**Q 国際物流事業における2035年度（10年後）の営業利益目標300億～400億は、今後の貿易量の増加や物価上昇等を考えると、保守的に思えるが、目標値より更なる成長を期待してもいいのか。**

A 中長期における様々な情勢・事業環境の変化等への対応を適切に図っていくことで、300～400億円の営業利益を目指していく。

**Q コラボイベント等の効果もあり、志摩スペイン村の収益性が第3四半期まででかなり改善している。伊勢志摩の観光魅力の発掘に向けて、IP（知的財産）を活用した資本効率性の高い取組みで計画していることがあれば教えてほしい。**

A 伊勢志摩には、魅力的な観光資源が潜在していると確信している。

志摩スペイン村でのコラボイベントは、期間中だけでなくその後もご来場者数の増加に貢献しており、コンテンツビジネスの重要性を改めて認識するなか、他に有する個別コンテンツを活用した外部連携も積極的に取り組んでいく。

また、伊勢志摩エリアでは、あらゆる可能性を排除せずにソフト面の充実を進め、グループ総力をもって魅力あるエリアに磨き上げることで、国内だけでなくインバウンド誘客も推し進め、他県に比べ低い水準に留まっているインバウンド来訪率の向上を図っていく。